

【正月豆知識その2】正月にやってはいけない言い伝え

正月にそうじをすると「福を掃き出す」ので大晦日に掃除をしておくというところや、正月にはカマドの灰を掻き出してはいけないので、稲わらを燃やさず、木の枝（固木）を燃やして料理をしたり、正月には殺生をしてはいけないというので、鳥をこしらえる（殺す）ことを禁じているところもありました。



蓮田のお正月カレンダー



【正月豆知識その1】お正月の期間

お正月の期間は家によって①1～15日②16日の小正月まで③20日の恵比寿講までと、様々です。どの家もお正月が終わると、かつては麦や粟のご飯にもどし、仕事も元に戻しました。また、正月は大正月と小正月に分かれます（裏面参照）。大正月は歳神様を迎えて年男が中心となって様々な行事を行い、小正月には主に豊作を祈る農業にちなんだ行事がおこなわれます。

鎌入れから恵比寿講まで										元旦から七草まで										正月準備				名称	月日	行事内容	行事食	
恵比寿講 ※	成木責め ☆	女の正月 ●	女 ☆	藪入り ☆	小豆飯 △	小豆粥 △	ハナ ☆	繭玉団子 △	オミタマ ☆	オニタマ ☆	蔵開き ☆	鎌入れ ●	七草 ◆	山入り ☆	門付け ☆	初水 ●	お寺参り ☆	オオバン ●	餅なし正月 ☆	正月のお供え ☆	歳神様 △	大晦日 ◆	門松 △					注連飾り ◎
正月二〇日		正月一六日	正月一五・一六日	正月一五・一六日	正月一六日と 八月一六日	正月一五日	正月一四日	正月一四日	大晦日・正 月一四日・一 五日	正月一日	正月一日	正月七日	正月六日	正月六日	元旦	三が日	二日～二 日頃	三が日	三が日	元日～卯の 日・卯の刻	二月三日			二月一五日 頃～二八日頃				
恵比寿・大黒様をちやぶ台に祀り、高盛りの御飯、尾頭付きの魚、けんちん汁、カケブナ、財布などを供える。	屋敷内の柿の木に唱え事を言いながら棒を打ちつける。	嫁さんが実家に帰ったりする。	よく実がなるようにまじないをする	大きな農家や商家・職人などの奉公人に暇が出る。	十六日の朝、小豆飯を作り、神様や仏様に供える。	小豆、米、繭玉団子を入れた小豆粥を作り、ニワトコの枝を入れてかき混ぜ、神棚に供える。	ニワトコの枝で削り花を作り、神棚や堆肥場に供える。	ダンゴ木(クヌギ・ナラ・柳など)に繭玉団子(うるち米の粉を湯でこねて作る)を挿して神棚に飾る。	仏壇などに、御飯を丸く握ったものにウツギを刺して供える。	蔵の扉の前に御幣・お供え・山盛りの御散米を備えて五穀豊穡を祈った。	アキのカタの畑に行き、魚、御散米をまき、三畝さくつて農作業の所作を行う。	山に入り、鎌で枝を刈り、御神酒を供え、山の仕事始めを行う。	年男が井戸から手桶で若水を汲む。	正月の間、新年を言祝ぐ芸人が家々を訪れ回った。	檀家が菩提寺に年頭の挨拶を言いに行く。	親戚の者を招待し、新年の挨拶をして御馳走をふるまう。来客は年始として半紙半帖を二つ折りにして水引を掛けたものと手ぬぐい・砂糖を持参した。	餅の代わりに別の行事食を食べたり、神様に隠れて餅を食べたりする。	除夜の鐘を聞きながら、家族の者と神社に参拝に出かける。	雑煮を作って食べる。	正月様ともいい、その年の作物の豊作をもたらす神様。	大晦日の夜、(晦日祓)ミソカツパライをする。	正月三が日や七日に雑煮や七草粥を供える。	正月に飾る注連縄、お飾りを作る。	正月のお供え、雑煮の餅をつく。	正月を迎える準備として、笹竹や青竹で一年間のほこりやススを払う。	正月を迎える準備として、笹竹や青竹で一年間のほこりやススを払う。	正月のお供え、雑煮の餅をつく。	正月のお供え、雑煮の餅をつく。
カケブナ	御神酒	小豆粥	小豆粥	小豆粥	小豆飯	小豆粥	繭玉団子	オミタマ	餅・魚	御神酒・御散米	御神酒・御散米	七草粥	御神酒・御散米			そば・うどん 御飯・昆布巻き 野菜の煮しめ 芋の煮物・きんぴら ごぼう・煮豆	うどん	そば・御飯	御飯	御神酒・雑煮	けんちん汁	年越しそば・御飯			御飯・けんちん汁	御飯・けんちん汁	御飯・けんちん汁	御飯・けんちん汁

(注)
 ◎…80%以上実施 △…20%以上実施
 ◆…70%以上実施 ●…20%以下実施
 ※…50%以上実施 ☆…報告なし

・平成10年蓮田市教育委員会の調査。
 ・蓮田市内で無作為に242軒を抽出。その時点で行われていたものについて割合を示しています。
 ・「報告なし」については、過去に蓮田市教育委員会で行った聞き取り調査によるもの

【正月豆知識その3】破魔矢と羽子板
 赤ちゃんが生まれて初めて迎える正月を初正月といいます。暮れの12月20日頃に、赤ちゃんの初正月のお祝いとして母親の実家などから男の子には破魔矢を女の子には羽子板が贈られます。蓮田地域では、昭和10年頃迄は、ヒョウゴという掛け軸でした(男の子は、武将の絵柄・女の子は、お姫様の絵柄)。また、贈られた家は、お返しに7月1日の初山の日のお札やうちわ・菓子包などを配りました。